

令和7年度シラバス（国語）

学番 中等1 新潟県立村上中等教育学校

教科(科目)	国語（国語探究）	単位数	3単位	学年（系）	6学年理系
使用教科書	「高等学校 古典探究 古文編」（第一学習社）「高等学校 古典探究 漢文編」（第一学習社） 「名作を味わう定番小説選」（数研出版）				
副教材等	・第一学習社「古典探究 古文編 学習課題集」・第一学習社「古典探究 漢文編 学習課題集」 ・尚文出版「入試対策ベストセクション古文単語 325」・第一学習社「完全マスター古典文法」 ・数研出版「体系漢文」 ・共通テスト国語過去問題総合版 令和3～6年				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。 ②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切にする思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。 ③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的で対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～ ①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。 ②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。 ③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。 ④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

古文・漢文の語彙や文法事項・句法を身につけさせ、内容理解の力を養い、古典作品を通して、先人のものの見方や考え方を読み取る力を育てます。また、文学的な文章の学習を通じて、登場人物の人物像や心情、作品のテーマを読み取る力を養います。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	古典や文学的文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。	古典や文学的文章が持つ価値への認識を多面的・多角的な視点から考察し、一つの作品からだけでは得られない新たな気づきを獲得し、自分の考えを表現しようとしている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	古典や文学的文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。	古典や文学的文章が持つ価値への認識を多面的・多角的な視点から考察し、一つの作品からだけでは得られない新たな気づきを獲得し、自分の考えを表現しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	古文	読む 3時間	「発心集」 叡実、路頭の病者を憐れむ事	・仏教説話に取り上げられた人物の論理と行動を読み解き、編者が語り伝えようとした価値について考察する。	3	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
		読む 3時間	「十訓抄」 祭主三位輔親の侍、鶯を召しとどむる事	・主従のやりとりを通してどのような教訓を伝えようとしたのか、編者の意図を考えながら内容を読み味わう。	3	

	5	漢文	読む 3時間	「不顧後患」	・古代における臣下の立場を理解するとともに、呉王に対する少孺子の説得の巧みさを読み取る。	3	ワークシート (記述の点検)
		古文	読む 3時間	「不死之道」	・「不死の道」を知る者の死をめぐる人々の言葉から、「不死の道」についてのそれぞれの考えを読み取る。	3	ワークシート (記述の確認)
			読む 5時間	「枕草子」 宮に初めて参りたるころ 雪のいと高う降りたるを	・日記的章段を読んで、作者と中宮定子のとの関係性を読み解くとともに、当時の宮廷生活に関する理解を深める。	5	発表の様子 (行動の確認)
	6	小説	読む 8時間 書く 10時間	「舞姫」 森鷗外	・豊太郎とエリスの間に何があったのか、語りの時制や文体・時代背景なども意識して、物語を読み味わう。 ・夏目漱石「こころ」と読み比べて、「明治」という時代の特徴についてレポートにまとめ、発表する。	18	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
				定期考査		1	
	7	古文	読む 3時間	「源氏物語」 夕顔の死	・長編物語としてのストーリーをたどりながら、「源氏物語」の話の展開の仕方や心理描写の巧みさを捉える。	3	ワークシート (記述の点検)
		随筆	読む 3時間	「源氏物語 九 つの変奏」 江國香織	・読解を通して、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする。 ・他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	8	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	9	古文	読む 5時間	「源氏物語」 須磨の秋	・長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確にとらえる。		
		漢文	読む 3時間	「捕蛇者説」	・蔣氏の言葉に表れた、古代の民衆の生活の様子を読み取るとともに、作者がこの文章を著した目的を理解する。	3	ワークシート (記述の点検)
				定期考査		1	

10	古文	読む 3時間	「俊頼随函」	・和歌に関する多様な考え方の一端に触れ、公任が考える、世評とは異なる和歌の評価基準を理解する。	3	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
11	小説	読む 7時間 書く 10時間	「檸檬」 梶井基次郎	・心象風景を描いた小説を共感的に読み取り、わずかな工夫によって、世界の捉え方が変わること気づく。 ・「檸檬」とその草稿である「瀬山の話」とを比較対照しながら、その内容をノートにまとめる。	7 10	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
	漢文	読む 6時間 書く 5時間	「古体の詩」 「源氏物語」(桐壺)と「白氏文集」(長恨歌)	・構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。 ・「長恨歌」と、この作品から影響を受けて書かれた「源氏物語」(桐壺)の巻とを読み比べ、登場人物や物語の展開などの類似点をまとめる。	6 5	
			定期考査		1	
12	文学的文章、 古典の内容全般	読む 11時間 読む 10時間 読む 9時間		・マーク式問題集や模試過去問を利用して探究的な問題に取り組む。	30	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認) ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
3						

計110時間(48分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	B「書くこと」 25 時間	C「読むこと」 85 時間
-----------------	------------------	------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・ 読解や意見文などの課題の提出があります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。(指定図書の読書レポートなど)

8 担当者からの一言

古典や文学作品を読み深めることを通して、他者への関心や思いやりを育ててほしいと思います。また、文章を読み、いろいろな人間の考えを知ることを通して、多角的なものの見方もできるようになることを期待しています。それによって、自分を客観的に深く理解することができるようになれば、今後人生が豊かになると考えています。

(担当： 臼木 妙子)